

豊橋市議選考

地方政治 クリエイト **伊藤 秀昭**

低の投票率 熱い選挙戦、最終の投票率 冷たい風雨の中でマイクを握り懸命に訴える候補者がいた。シンボル旗を飛ばされそうになり、必死に支えて交差点に立つ人たちがいた。

選挙戦最終日、午前零時まで豊橋駅前を頭を下げ続ける候補者がいた。

開票の夜、肩を落し無言で事務所を片付ける人たちがいた。

定数36に対して42人がしのぎを削った豊橋市議会議員選挙。戦国時代さながらの合戦絵巻が展開

終えている。議員本来の議案審議よりも、自らの選挙準備が最優先された結果である。議員自らが全会一致で可決した「議会基本条例」は2013年3月に成立しているが、その第3章には議会及び議員の活動原則が決められている。新城市議会や田原市議会とは雲泥の差。「議会は必要と認めるときは、議会報告会を行う」(同第6条)とされている。豊橋では初めての規模といえる中心市街地の再開発計画が進み、再開発エリアには「まちなか図書館プロジェクト」が予定されている。

最低の投票率に議会も猛省を

「議会」としての合意形成を目指す、議論を尽くすこと(第3条)として、議論は尽くされているのかどうか。

「議会基本条の目的に徹せよ」全国的にも無投票当選と低投票率が今回の統一選の由々しき特長であり、地方議会の形骸化が指摘され、地方自治のあり方が根本から問い直されている。

しかし、地方議会の空洞化を叫ぶ前に、議員自らが「市民福祉の向上及び市民の伸展に寄与することを目的とする」(同第1条)議会活動、議員活動に徹すべきではないか。

「待ち受ける大仕事」今回、向こう四年間の任期を託された議員には、待ったなしの大仕事待ち受けている。

日本の人口減少と絡め、政府は「地方創生」を掲げ、5年後の人口1億人の維持を目指す「長期ビジョン」と今後5年間の施策の方向性を示す「総合戦略」を示す「総合戦略」を

昨年末に開議決定し、自治体には地方版の「人口ビジョン」と「総合戦略」を今年度中に策定するよう求めている。地域の実情に即した構想をまとめるには、住民のニーズを反映した議会の活発な議論と適切なチェックが

長く分裂を繰り返していた自民系会派が自民党豊橋市議団として、「市と広域連合をリードする役割を一枚岩になって果たしていきたい」と19年ぶりにまとまった事は喜ばしい。

4月25日、豊橋駅前での街頭演説で、太田国土交通大臣は「日本全国が地方創生の競争を始めた今こそ、豊橋、東三河の高いポテンシャルで全国をリードする地域であって欲しい」と期待を寄せた。

新人6人を交え、議会として議員力を高め、切磋琢磨し責務を果たすための努力を継続すべきである。市民の関心も、投票率の向上もその先にある。



伊藤 秀昭

また発足したばかりの東三河広域連合議会も、豊橋市議会が7人の議員を選出していることから、豊橋市議会の役割は重要。幸いにも、改選後、